



# なかま

発行 交野市ボランティアグループ連絡会  
 (交野市ボランティアセンター内)  
 V連絡会 E-mail vltr94@leto.eonet.ne.jp  
 Vセンター E-mail katabora1994@katano-

ボランティアを  
 紹介してほしい人  
 ボランティア活動を  
 はじめたい人  
 ボランティアセンター  
 にお問い合わせください  
 (Tel 8 9 4 - 3 7 3 7)  
 (Fax 8 9 1 - 3 3 4 0)

五月から元号が平成から令和に代りました。何か新たな芽吹きを感じますが、ボランティアの皆様はどのように感じておられるでしょうか。

平成の時代を顧みますと、経済や技術のグローバル化が大変進んだ時代であったと思います。その結果、あらゆる分野で競争が激化し、差別化とか個性化が進み、国家・組織など単位毎の個が重視され、調和とか協調というものが疎んじられてきたように思えます。言い換えれば人を大切にすることを軽んじられ、自分さえよければという風潮が生まれてきたといっても過言ではないと思います。新しい時代が穏やかで人々を大切にしている社会であってほしいと願っています。ボランティア活動の基本も「人を大切に」が始まりだと思います。



活動について  
 V連絡会の  
 川下会長

## 明るく笑顔で、人との出会いを大切に

私たちボランティアグループ連絡会は、その前身であるボランティア協会として昭和52年3月に産声をあげ、平成6年4月に連絡会組織に移行しました。協会発足時から試行錯誤を重ねながら、現在まで42年の歴史を歩んできました。平成7年1月に起きた阪神淡路大震災では、西宮市での炊き出し、夙川地区での安否確認調査に駆けつけた先輩ボランティアの活躍は今も大きな力となっています。この震災を機にボランティアが広く社会に認知されるようになったと思っています。

私たちのボランティア活動も長い歴史の中で脈々と受け継がれ、その活動の重要性が認知されることになり、ボランティアセンターの設立、ボランティアコーディネーターが配置されました。またボランティアセンターは私たちの活動拠点として大きな意義を持ち、連絡会に集う各々のグループのボランティア活動の発展を支えてきました。

しかし連絡会の活動の柱として



昨年の市民交流フェスタ、出演は  
 チームよさこい星田山手の子どもたち

三大行事と銘打ってきました活動にも陰りが見えはじめ、とりわけ市民交流フェスタについては、開催時期やその運営などに多様な意見が寄せられ、三大行事のあり方や実行委員会の運営も含めて、昨年末から各グループの意向などリーダーを紹介して聞いてきました。

**市民交流フェスタを一年延期**

その中でも市民交流フェスタはV連絡会が企画する唯一のイベントで、ボランティア活動を広く市民に啓発する機会であると同時に、障がい者の通所施設をはじめ各種団体のご協力もいただきながら続けている現状も認識し、どのようなイベントが望ましいのかを考えねばなりません。(2面に続く)

## ボランティア インタビュー73 井戸千津子さん(朗読・あい)



ボランティアを始められたきっかけは

同居していた両親のおかげで長く勤務を続けられました。が、思いがけず早く母を見送る事になりました。後に残された父のためにと仕事をあきらめました。何と一年ばかりで父までも見送る事になりました。とは思いませんでした。

子どもたちも社会人となり、ふと空いた時間に何をしようと思ったとき、広報「かたの」にあった朗読者養成講座が目にとまりました。ずっと自らの声の低音が気になっていましたので、発声などで少しでも改善できたら・・・と、受講を決め、その後「あい」に入会して気がつけば20年の月日が過ぎました。

### 活動の魅力は

やはり人との繋がりでしょ。うか、一つの物を協力して作り上げる、その課程が興味と重なり楽しいです。苦手な録音の機械操作もそれなりに挑戦しています。そして作品完成後の打ち上げも楽しみです。

### ボランティアの他には

歴史が大好きです。歴史ウォーキング等にも参加し、古文化同好会にも入会しています。子どもの頃に祖父母に連れていってもらった歌舞伎も好きで時間があれば行きたいです。

### 家族に支えられて

健康と家族の協力がなければできないことで感謝しています。「いつも何処へ行くの」と訊く幼い孫たちに「お勉強に行くの」と言っておりませんが、わざわざの勉強でなく、お互いに啓発できることがありがたいです。孫たちの成長を側で見る事ができるのも幸せです。

### リーダー会議(4月23日)

- ☆会長挨拶
- ・ボランティアグループ連絡会の「活動と今後について」(1・2面参照)
- ☆社協挨拶
- ・青山事務局長あいさつ
- ・今井係長、各務係長あいさつ
- ☆連絡会より
- ・平成30年度決算、同監査報告
- ・2019年度予算(案)
- ・V連絡会会則、同細則の一部改正
- 役員会及び指名委員会への参画について、事務局員の文言を削除(社協職員との立場を明確にするため)
- ・登録ボランティア交流会、ふれあい広場について(2面参照)
- ふれあい広場実行委員会を5月14日(火)10時30分開催、実行委員は全グループから1名を選出
- ・Vセンター大掃除(2面参照)
- ・リーダー親睦会について、6月25日(火)に実施、場所は役員会に一任
- ☆各グループから(内容省略)
- ☆Vセンターから
- ・夏のボランティア体験プログラムについて
- ・Vセンター利用ガイドについて
- ・警報令時の施設利用について

編集  
 後記

新元号「令和」

が始まって一週間が過ぎた。一か月も前から公表されていたにもかかわらず、まだ何となく慣れない響きだ。思い起こせば30年前、昭和から平成になった時も、同じことを言っていた(笑)

そしてまた、何10年か後には同じことを言っているのだろう。その時まで生きていくかどうかかわからないけれど(笑)

なんだかんだと超大型の10連休も終わり、いつも通りの日常生活がまた始まった。結局、人はいつしか慣れるものなのだ。でもせつかくだから、一度いろんなことをリセットしてみるのもいいかもしれない。だって「元年」なのだから。人は何かをする時はきつかけがほしいものだ。「初心忘るべからず」あの頃の気持ちに戻ってみよう。(おはま)





交野マラソン2019「車いすの部」に参加のみなさん

### 遺伝子で分かれるコーヒー派・お茶派

朝コーヒーを飲まなければ始まらないという人もいれば、お茶、紅茶という人もいるだろう。どちらを好むかは、苦みをどのように感じるかを決める遺伝子によって予め決められているという。

そこでオーストラリアの大学の研究者らは、イギリス人男女40万人分のデータ进行分析して、コーヒーやお茶の消費量と苦味物質の検出にしている苦味レセプター遺伝子との関係を調べた結果、平均的な人に比べカフェインを感じる苦味レセプター遺伝子を多く持つ人たちは、コーヒーをたくさん飲む（1日に4杯以上飲む）傾向にあることが分かった。対照的に、キニーネや人工の苦味剤プロピルチオウラシルの苦味レセプター遺伝子を多く持つ人は、コーヒーよりもお茶を好む傾向にあった。

このようにコーヒー派かお茶派かを分けているのは両親から受け継いだ遺伝子であるようだ。だが安心してほしい。遺伝子の影響でコーヒーやお茶があまり好きではない人も、その芳醇な味わいを一生楽しめないわけではない。(雑学大好き)

「目には青葉山ほととぎす 初かつを」  
初夏の季節といえば、「目には青葉山ほととぎす 初鰹」(江戸中期の俳人山口素堂の作)、目にも鮮やかな青葉、鳴き声の美しいほととぎす、食べて美味しい初鰹と、春から夏にかけて、江戸の人々が最も好んだものを俳句に詠んでいる。当時の江戸っ子の粋な証とか。初鰹が支持されたもう一つの理由は、初物は縁起が良いとされ、生気がみなぎり、生命力が得られると考えられ、様々な言い伝えとして、例えば「初物七十五日(初物を食べると寿命が75日のびる)」、「初物は東を向いて笑いなから食べる」と福を呼ぶ、「八十八夜に摘んだ新茶を飲むと無病息災で長生きできる」などが残っている。

「目には青葉山ほととぎす 初かつを」  
初夏の季節といえば、「目には青葉山ほととぎす 初鰹」(江戸中期の俳人山口素堂の作)、目にも鮮やかな青葉、鳴き声の美しいほととぎす、食べて美味しい初鰹と、春から夏にかけて、江戸の人々が最も好んだものを俳句に詠んでいる。当時の江戸っ子の粋な証とか。初鰹が支持されたもう一つの理由は、初物は縁起が良いとされ、生気がみなぎり、生命力が得られると考えられ、様々な言い伝えとして、例えば「初物七十五日(初物を食べると寿命が75日のびる)」、「初物は東を向いて笑いなから食べる」と福を呼ぶ、「八十八夜に摘んだ新茶を飲むと無病息災で長生きできる」などが残っている。

(竹トンボ)

## 交野マラソン 2019

4月21日恒例になった、交野マラソンが実施されました。初夏を思わせるようなお天気で交野にこんなたくさんの方がいたのかと思われるような盛況で、スタッフとして、手話や要約筆記の方たちの協力もありました。「ほほえみ」に参加しているAさんも車椅子の部1・5kmを見事に完走されました。Aさんの喜びの声をお届けします。



### みんなのひろば

「毎年、テラサポートのヘルパーさんに伴走していただいています。ですが、順位は良くありません。でも自力で完走できたという満足感が得られ、とても嬉しかったです。健康に気を付けて来年もまた出場したい」とのことでした。

### 「ほほえみ・さつき・星の会」がお手伝い



桜をバックにみんなで記念撮影

4月8日(月)「かざぐるま」「ほほえみ」合同で造幣局の特別観桜会に行きました。活動を利用して、障がいのある方とボランティア18名でJR河内磐船駅に9時30分集合。大阪城北詰駅から造幣局まで交代で車いすを押し、歩行に不安のある方の手引きをしながら春爛漫の汗ばむような好天気の良い運動になりました。

今年の桜は一部まだつぼみという木もありましたが、交野の桜とはまた違った趣で、ゆっくり花見を楽しみました。造幣局が用意してくださった草餅と桜餅、ペットボトルのお茶がとてもおいしかったです。

### ボランティアセンター

### 春の大掃除

5月20日(月)10時から(雨天決行)

当番グループ「あい、ほほえみ、ふれんず、糸ぐるま、HAND、ひまわり、玉手箱、」です。

ボランティアセンター登録グループ及び個人登録ボランティアのみなさまのご協力もお願いします



初夏の風物詩

目には青葉

山ほととぎす

初かつを

## 天場さんが戻ってきました



4月に復職しました。ボランティアさんの元気な姿に活力をいただき、また新たに活動を始められたボランティアさんとの交流を楽しみにしています。ボランティアセンター事務所に常駐していますので、なにかありましたら気軽に声をかけください。よろしくお願い致します。  
コーディネーター  
天場 元美

### 社協VC担当職員が代わります

各務 正敏

これから勉強させていただきますので、よろしくお願い致します。

今井 玲美

ボランティアセンターでの仕事は楽しかったです。ありがとうございました。

(1面から続く)  
寄せられた幅広い意見をどう纏めるか大変苦慮しました。加えて会場に予定しています「ゆうゆうセンター4階多目的ホール」の空調設備の改修工事が来年1月から3月に実施されることになりました。そのような事情から市民交流フェスタのあり方については開催時期も含め引き続き検討します。そして今年の開催を見送り、来年度の開催をリーダー会議で決めました。

健康福祉フェスティバル  
出店ブースの検討  
健康福祉フェスティバル・ふれあい広場は11月10日(日)に開催されます。このイベントへの出店ブースについて、昨年は野点に変わり新たに「古本市」のブースを加え、既存の3ブースと一緒に4ブースを出し、館内では高齢者疑似体験コーナーを開きました。これらの出店ブースについても多岐に亘る意見をいただいておりますので、リーダー会議、実行委員会等を中心に早急に結論を求めていきます。ボランティア活動も社会の変化の中で活動の形態が変容する部分もありますが、活動に取り組み基本姿勢は「明るく笑顔で、人との出会いを大切に」を忘れずに活動の輪(和)を広げていくことが大切です。

### かざぐるま・ほほえみがサポート

造幣局の特別観桜会